

2015年 年頭所感 ～理事監事メッセージ～

グローバルに活躍する起業家やベンチャー支援を行う人材を育てるベンチャーキャピタリスト育成の講座拡大に加え、大企業との提携、地域活性化、大学との連携、制度改革など、理事一丸となって業界団体の結束力を高め、日本経済を牽引します。

会長 尾崎一法



ベンチャー業界は2013年から着実に変わってきました。これを一過性のブームで終わらせてはなりません。今こそ社会を変える本物の起業家と、本質を追求するVCが必須です。失敗を恐れず、果敢にチャレンジする企業家精神こそが日本を変える！

副会長 安達俊久



2013年度の日本のVC投資額は1,818億円と末広がり拡大傾向。今年は大企業を巻き込んでM&Aをはじめ、オープンイノベーションを実現する年にするとともに、『ベンチャー白書』を世界に発信していきたい。

専務理事 市川隆治



未来に向かって新しい市場を創り出すのがベンチャーチャレンジの醍醐味です。そのためには、進歩し続ける科学技術を学び続け、理論構成に頭を捻りながら、気合と根性で立ち向かわなければいけません。本年もまた、夢を描きながら前進していきます。

常務理事 呉 雅俊



社会に大きなイノベーションをもたらすVBの発掘、育成が本来ミッション。その為にはVC自身がイノベティブでなければならない。VCの真価が問われる中、自らの固定観念を払拭し、大胆に発想の転換を図ることで更なる飛躍の年にしたい。

常務理事 安藤 啓



新年は、昨年からのベンチャーへの期待感をしっかりとベンチャーキャピタルの存在感に繋げることができるかがキーだと思っています。VC業界の存在感とともにJVCAの存在感をベンチャー企業、政官民学、海外にしっかりと示していきたいです。

理事 齋藤茂樹



年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。さて、政府の成長戦略の一つに、ベンチャー支援強化が謳われております。我々も、将来の日本を支える会社へのリスクマネーの提供、育成等に向けて、積極的な活動を展開して参ります。

理事 川崎憲一



年々フラットになっていく世界で、シリコンバレー以外にもホットスポットと呼ばれる地域が台頭しています。日本発のグローバル企業誕生を目指して本年も頑張ります。海外からも人材が集まる魅力ある日本のベンチャーエコシステムを築きましょう。

理事 吉田 勉



昨年は、新規上場件数が一段と増加し、VC業界にはフォローの風が吹いております。弊社は、「ベンチャー企業と共に成長する」をモットーに、引き続き積極的な起業家の支援を推進して参ります。

理事 有馬英二



経済成長の源泉は「新たな製品・サービス」の創出にあります。それを実現するベンチャー企業に成長資金を供給し、共に歩み、ソリューションをアレンジすることが当社の使命です。自らもレベルアップし、今年一年、精力的に活動して参ります。

理事 鹿島文行



アジアにおけるスマホ加入台数は2017年には20億台を超えると予測される中、モバイル先進国である日本にとっては世界に出ていく大きなチャンス到来です。世界を目指す起業家が思う存分活躍できる環境創りに全力で貢献していきたいと思ひます。

理事 田島聡一



日本のVC投資額や投資社数も大幅に拡大し、IPO件数も活発化するなど、ベンチャー業界全体が盛り上がりを見せています。業界のエコシステムのさらなる活性化に貢献すべく、関係者の皆様との連携強め、ひたむきに邁進してまいります。

理事 赤浦 徹



未来への道は既に選択されている。「バック・トゥ・ザ・フューチャー」でマクフライ少年が訪れる30年後とは2015年。発売30年を迎えるウィンドウズは仕事の仕組みを変えた。来たる30年の緒年は、変えられない未来を作る始まりにしなければ。

理事 神保敏明



イノベーションの誘発は、少子化の日本経済において不可欠な状況です。我々は、大学・研究機関・研究者等の優れた技術やノウハウを活用してイノベーションを誘発し、日本経済に貢献できるよう邁進します。

理事 瀧口 匡



昨年10月に理事に就任させていただいた郷治友孝(UTEC代表取締役社長)です。ファンド規制の見直しや国立大学の出資事業など政策課題の重要性が高まる中、VC業界全体のお役に立てればと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

理事 郷治友孝



ベンチャー起業が再び注目を集めるのと同時にいくつかの破壊的イノベーションの種が生まれつつあり、かつ産業構造のパラダイムシフトが起こりつつあると実感しています。投資家、事業会社、JVCAメンバーとしてこの流れを更に加速させたいと思ひます。

理事 秋元信行



日本経済を真の成長へと導くのはベンチャー企業です。その育成・成長ための環境は従来にもまして整いつつあります。未来を予感させる変化・変革を実現するために一層の支援に取組みます。本年が皆様にとって飛躍の年となりますように！

監事 山崎博行



未年の本年は「羊辛抱」と言われますが新成長が求められている日本経済にとっては未来の礎を着実に創る年であるのかも知れません。官民業界が一体となった適時適切なリスクマネー供給に当協会が貢献し確実な経済成長となることを祈念しております。

監事 轟 芳英



イノベーションを起こしているベンチャー企業は、マーケットの拡大を求めてグローバル展開を加速していると実感しています。国による様々な制度の違いがこのグローバル展開の足かせとならないよう、事前対策を支援できたらと考えています。

監事 加藤博久



今後開催予定の後援イベントの主なイベントは以下の通りです

- ・1/22 (木) 経産省 新事業創造カンファレンス&Connect!
 - ・1/28 (水) 新日本監査法人企業成長サミット2015 in 九州
 - ・1/29 (木) 新日本監査法人企業成長サミット2015 in Kansai (大阪)
 - ・2/8 (日) SENDAI for Startups!2015 (東北大学)
 - ・THE INDEPENDENTS CLUB (東京・名古屋・大阪)、他
- ※JVCAでは上記以外にも多数のイベントの後援をしています！

JVCAでは広報活動も積極的に取り組んでいます



■ 金融審議会「投資運用等に関するワーキング・グループ」

2014年5月14日に金融庁が発表し、同年8月の施行が予定されていた「適格機関投資家等特例業務の見直しに係る政令案」の閣議決定が延期となり、麻生金融担当大臣の諮問により10月から金融審議会「投資運用等に関するワーキング・グループ」にて規制改正の検討が行われております。

本ワーキング・グループにおきまして、当協会の尾崎会長がメンバーに就任しており、第3回(2014年11月6日)・第4回(11月21日)審議会におきましては郷治理事に参考人として出席しております。

本ワーキング・グループでの議論は、詐欺的業者による適格機関投資家等特例業務の悪用事例の紹介に基づき、投資家保護サイドから早急な規制強化論が強く主張される中、当協会としては、ベンチャーキャピタルが成長資金を供給する役割として、またベンチャー企業が日本経済の成長と雇用拡大に果たす役割から、特例業務制度の在り方について、①リスク判断能力と投資判断能力のある個人等によるファンドへの出資の自由を引き続き認める方策、②ベンチャーキャピタルの開業を阻害しないための方策等、をはじめとした規制改革案を提言しております。

2014年10月から始まった審議会はこれまでに6回開催され、議論された内容をもとに、2015年1月19日での審議会にて報告案の提出および大筋の合意をしております。

今後は、本報告書の趣旨を踏まえ、適切な制度整備・運用が行われていくことを期待します。

金融審議会「投資運用等に関するワーキング・グループ」実施事項・配布資料・議事録につきましては以下金融庁ウェブサイトにてご覧いただけます。

http://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/base_gijiroku.html#toushi_wg

■ 「第7回 中国・四国地区VCトップ懇談会」開催 (2014/10/31)

2014年10月31日(金)、第7回中国・四国地区VCトップ懇談会をリーガロイヤルホテル広島(広島市)にて開催致しました。第7回開催を迎えた懇談会には、中国、四国、九州各地区のVCトップ、関係省庁の関係者、JVCA理事など昨年の第6回を上回る約50名が出席し、九州地区VCからは、株式会社ドーガン林副社長、大分ベンチャーキャピタル株式会社田村代表取締役役に初めて出席いただきました。関係各位、JVCA会員各位の温かいご協力ご支援をいただきながら、第7回開催を迎えられたことを心より御礼申し上げます。

今回は、JVCA会長に尾崎一法が就任して初めての懇談会であり、中国、四国、九州地区それぞれの投資動向などVC活動状況の報告を受けての自由討議など、出席者による活発な意見交換が行われました。

懇談会冒頭、尾崎会長からは、JVCA活動方針として、ベンチャーキャピタリスト育成事業の拡充、会員数増加施策、地域VCの活性化、JVCA運営体制強化など重要課題の報告を行いました。プレゼンテーションは、経済産業省 産業資金課長 兼 新規産業室長 佐々木啓介様から「アベノミクスと地域再生」、株式会社REVICキャピタル代表取締役社長 田中雅範様から「地域経済活性化支援機構(REVIC)のミッションと取り組み」をいただきました。

中国、四国、九州各地区のVC活動では、資金調達、人材確保などの課題について報告があり、今後、大都市圏のVC、大企業との連携の必要性を感じました。

九州地区VC各位からは、九州地区におけるVC懇談会開催希望の声をいただきましたので、早々に本年5月、第1回九州地区VC懇談会を開催予定です。

中国・四国地区VCトップ懇談会をコアとして、九州地区を始め、関西地区、東北地区などでの懇談会開催を予定してまいります。

引き続き、会員各位のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



■第一回「メディアプレゼンテーション」開催 (2014/10/22)

10月22日(水) 虎ノ門ヒルズにて日本ベンチャーキャピタル協会の第1回メディアプレゼンテーションを開催しました。インキュベイトファンド代表パートナー村田祐介氏による最新のデータを交えながらのプレゼンテーション、セッション＜第一部＞は日本を代表するキャピタリストによる内容で投資戦略中心について、ヒトカネの両面が揃い始めている具体例を交えつつの議論、＜第二部＞はグローバルで活躍中の若手起業家によるVCとの付き合い方や買収交渉の秘話などVBの創業者・経営者らが自らの体験をもとにお話し頂きました。最後の懇親会はメディアと関係者の間で盛んに情報交換が行われ、盛況のうちに終了をいたしました。ご登壇を頂きました皆様本当にありがとうございました。JVCAでは今後も積極的な情報発信をしてまいります！(※会員の皆様には、当日のDVD・プレゼンテーション資料の貸出をしておりますのでご利用ください)



■新春セミナー「Changing Landscape of Venture Capital Today」～ VCがリードするエコシステムを目指して ～ (2015/1/21)

1月15日(木)17:00～19:00にサンブリッジグループ最高経営責任者CEOアレン・マイナー氏による「Changing Landscape of Venture Capital Today ～ VCがリードするエコシステムを目指して～」と題したJVCA主催新春特別セミナーを丸の内21Cにて開催しました。

シリコンバレーVC業界の淘汰と新陳代謝が起こりつつある環境下、90年代からVCのビジネスモデルはどう変化しているのか? Siebel vs salesforce, Tesla vs Fisker Automotive等の事例を交えて、また、メガファンドを組成したことによるレーターステージ偏重投資の矛盾などに切り込んで解説していただきました。当日は、最近のVCのビジネスモデルについて関心度が高く60名を超える多くの方に参加していただきました。

※なお、JVCA会員の皆様には当日の「勉強会DVD」を貸出しておりますのでご利用ください。



■勉強会「クラウド・ファンディング」&「Thanksネットワーキング」開催 (2014/12/18)

12月18日(木)株式会社出縄&カンパニー代表出縄良人氏による「金融商品取引法改正で広がるクラウドファンディング制度その活用」と題した勉強会を開催しました。

クラウドファンディングの仕組みから従来の未上場株式制度の問題点・制度改正の方針、クラウドファンディング制度の方向について解説していただきましたが、最近ベンチャー企業の資金調達手段のひとつとして関心度が高く、多くの方にご出席をいただきました。

勉強会後はネットワーキングを開催、乾杯のご発声をいただいた吉田理事(三井物産グローバル投資㈱代表取締役社長)をはじめ、会員の皆様、ご参加をありがとうございました！



■「JVCA CVCフォーラム 2014」 CVCs on Stage! 開催 (2014/11/18)

去る11月18日、今回で実質3回目を迎える「CVCフォーラム2014」が、アークヒルズの「ドコモ・イノベーションビル」で開催されました。

今回は基調講演やパネル・ディスカッションが中心だった前回までと趣向を変え、「CVCs on Stage!」と題し、13社もの錚々たる事業会社の皆様にご登壇頂きました。1社当たりの持ち時間7～8分でプレゼンをして頂くという、大変無茶なお願いにも関わらず、ご登壇者の皆様それぞれ周到に準備して頂き、入れ替わり立ち代わりステージに立って頂いて矢継ぎ早に各社の取り組みや考え方、経験談を聞かせて頂き、大変贅沢かつ中身の濃い時間となりました。ご参加の皆様からも、大変参考になった、有意義だったとご好評を頂いております。

また、VCトップによるパネル・ディスカッションのコーナーも設け、VC側から見た事業会社との連携や役割分担について、活発なディスカッションが行われました。

大企業とベンチャー企業、中小企業との連携、提携の重要性がますます高まっている昨今、JVCAは今後も事業会社とベンチャーキャピタルが相互に理解し合い、連携して「イノベーション」を起こしていくような流れに貢献していきたいと考えています。

さて、今度はどんな企画にしましょうか。



15:10-16:10 CVCピッチ【第1部】 各社の強みや弱み・期待している点・他社 動向、VCに期待することなど	16:15-17:00 パネルディスカッション VCとCVCの役割分担	17:10-18:20 CVCピッチ【第2部】 各社の強みや弱み・期待している点・他社 動向、VCに期待することなど
出川章理 氏 インテル インテル・キャピタル マネージング・ディレクター 	モデレーター 安永謙 氏 株式会社安永新機 取締役 マネージング・ディレクター 	有田寿範 氏 株式会社リコー コーポレート投資部長 取締役 マネージング・ディレクター
山本洋介 氏 JSR株式会社 投資企画部 主査 	郷治友孝 氏 株式会社 東京大学 エンジェル・キャピタル マネージング・ディレクター 	濱崎省吾 氏 パナソニック株式会社 光電技術本部 投資企画部 ベンチャー・キャピタル部長
岡城寺啓一 氏 TEL Venture Capital, Inc. President 	百合本安彦 氏 グローバル・ブレイン 株式会社 代表取締役社員 	江崎智広 氏 KDDI株式会社 新事業開発部 取締役 マネージング・ディレクター
斉藤浩樹 氏 BASFジャパン株式会社 投資企画部 マネージング・ディレクター シニアマネージャー 	今庄啓二 氏 フューチャーベンチャー キャピタル株式会社 代表取締役社長 	西川浩司 氏 株式会社オレンジ ジャパン パートナーシップ マネージャー
小澤尚志 氏 オムロンベンチャー 株式会社 代表取締役社員 	奥原圭一 氏 日本ベンチャー キャピタル株式会社 代表取締役社員 	野内 敦 氏 野内・ベンチャー・キャピタル 代表取締役
幸野谷信次 氏 富士通株式会社 投資企画部 シニアマネージャー 	三好大介 氏 株式会社 NTTドコモ ベンチャー マネージング・ディレクター 	熊田周太郎 氏 株式会社リクルート スタートアップ・パートナーズ バイスプレジデント

お申込み方法
お申し込み方法の詳細につきましては、
ご招待メールをご覧ください

お問い合わせ
一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 事務局
東京都港区新橋2-21-1 新橋フロントタワー
TEL: 03-5937-0300 E-mail: jimukyoku@jvca.jp

参加費 (事前申込制)
11,714(金)以下: 下記にお振込み下さい
銀行名: 三井住友銀行
支店: 東京中央支店
口座: 9109528
日本ベンチャーキャピタル協会
※申込手数料はご負担ください
※お振込み後、入金確認が完了するまでは返金
ができませんのであらかじめご了承下さい

■コラム「西海岸ベンチャー業界探訪記」 会員 金森岳史氏 (三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)

2014年秋からカリフォルニア州サンディエゴのアントレプレナー教育に強みのあるMBAに留学している。当地はillumina (遺伝子解析装置)、Qualcomm (携帯電話用半導体) の本社を擁し、特にバイオ業界において産官学連携によるクラスター形成の成功例だ。簡単に紹介すると、2013年のベンチャーキャピタルによる在サンディエゴ・ベンチャーへの投資総額は約8億ドル、年間約400社のStart-upが生まれており、カリフォルニア州の群別では、LA、サンタクララ (シリコンバレー)、サンフランシスコに次ぐ4位、研究機関への補助金額では同州最大規模を享受し、特許承認件数で3位となっている (全て2013年データ)。西海岸最南端の楽園、サーフィン天国という軟派なイメージとは正反対の知的な現実がある。なお、日本との関わりが深く、エレクトロニクス、製薬等のメーカーの拠点があり、日系スーパーやラーメン屋も多い。また、海軍の主要な軍港であるため、日本に駐留経験のある元軍人がクラスメートにいたりする。そうした中、筆者は、連日の悶絶しそうな大量の英語の課題の合間を縫って、サンディエゴの今日までの成功の中核であるインキュベーターのCONNECT (<http://connect.org/>) で業界調査のお手伝いにも従事しており、日々発見が多い。特にベンチャーを育てるEco Systemは素晴らしい。筆者が通うUC San Diegoでは大学内に、ベンチャーファンドやアクセラレーターが存在し、ビジネスプランのコンペや、地元の起業家の講演会、ネットワーキングイベントが隔週くらいの頻度である。また、ベンチャーへの投資総額のうちエンジェル投資家が占める比率が約3割とVCと同程度に高い。

このように学びの多い日々を過ごしている。自分を育ててくれた日本のベンチャー業界や金融機関としての職務に有用なもの、面白いものを少しでも持ち帰ることが出来ればと思い、今後も経験を深めてまいりたい。

JVCAからのお知らせ

1. 2014年度トップ懇談会は2015年2月に計4回開催されます

2月に開催予定の2014年度トップ懇談会では、「①大学」「②地域」「③CVC」「④独立系VC」テーマ別に計4回プレゼンテーション形式のプログラムにて懇談会を行います。

2. 新規会員のご紹介

◆ 株式会社オプト

1994年創業のオプトは「eマーケティング」事業が主軸の会社でありましたが、現在までの資産を活かし、インターネットを中心とした事業を育てる「事業創造プラットフォーム」へと変革して参ります。今後、更なる成長を目指すべく、『成長に挑戦する企業と人を応援し、次代を切り拓くイノベーションを生み出し、未来の世界への繁栄エンジンになる』の旗印のもと、ベンチャー企業への投資・育成を強化して参ります。

創業者の鉢嶺登の経験からも、起業間もないベンチャーが真に必要としているのは、金銭的な援助のみならず、顧客紹介や、事業拡大に専念するための管理部門業務の支援（例えば、人材やeマーケティング支援、経理・広報・法務・研修等の管理部門業務）など、経営全般に関わる幅広い援助であると考えております。オプトでは、そうしたベンチャーが真に必要としているサポートを提供し、ベンチャーの成長スピードを加速して行くよう支援致します。「事業創造プラットフォーム」へ変革するオプトは、未来の世界の繁栄へ貢献して参りたいと考えております。



◆ 株式会社産業革新機構

当社は産業競争力強化法に基づき、2009年7月より運営を開始し、運営期間は15年間で定められています。新たな付加価値を創出する革新的な事業に対して投資を行っています。15年という運営期間の中で、中長期のリスクマネーを提供し、投資事業の価値最大化につながる投資倍率を重視しており、投資に際しては、徹底した調査の実施、民間企業等との協業・協力を行い、投資先には取締役派遣などを通じた経営参加型支援を実践しています。

我が国の経済・産業の発展をいっそう推し進めるためには、「今まで慣れ親しんできたビジネスモデルや業種、企業の枠にとらわれずに、その発想と行動において自己変革と革新を推し進めていくこと（＝オープンイノベーション）」が重要な鍵となります。産業革新機構は、このオープンイノベーションを通じて、次世代の国富を担う産業を創出するため、産業界と連携して様々な活動を行っております。



【編集後記】

2015年の年明けを迎え、「こいつあ～春から、あつ、縁起がいいわね。」（よっ、起業屋）といきたいところでしたが、年末ジャンボも当たらず、濡れ手に粟？は夢の夢でしょうか？

まあ、何事も一歩、一歩地道にということが肝心なのでしょうが、今年のJVCAはビッグバンの如く跳んで、弾けて、飛躍するぞ！と、投資ならぬ闘志を燃やしています。

本年も、JVCAをお引き立ていただきますよう、「隅から隅まで、ズ、ズ、ズィッ～とお願い奉ります」（歌舞伎好き）

日本ベンチャーキャピタル協会 ニュースレター No.37

■発行日 平成27年1月20日

■発行 一般社団法人 日本ベンチャーキャピタル協会

■編集 JVCA企画部／事務局

〒169-0074 東京都新宿区北新宿2-21-1

新宿フロントタワー

TEL : 03-5937-0300 FAX : 03-5937-0301

E-mail : jimukyoku@jvca.jp URL : <http://www.jvca.jp/>

